

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

大台町教育委員会

令和6年4月18日に、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果の概要について、以下の通りまとめました。

結果の公表については、保護者・地域の皆様に学校教育と家庭教育についてのご理解・ご協力を得ることが何よりも大切であると考え、教科に関する結果、学力の背景となっている児童・生徒質問紙調査から見られた本町の児童・生徒の好ましい傾向と教育課題、そして今後の取組についてお示しさせていただきます。

教科に関する調査結果の概要

教科に関する調査は、小学校では国語・算数の2教科、大台町立小学校第6学年の児童52名が参加しました。調査結果については、小学校では、国語、算数それぞれにおいて、児童はよくがんばりましたが全国平均正答率より低い傾向にありました。

以下に、調査結果から「おおむね理解している問題」と「課題がみられた問題」についてまとめました。

【小学校 国語】

＜おおむね理解している問題＞

- ◇情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題
- ・【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものととして、適切なものを選択する。〔2－(2)〕(正答率：約9割)

＜課題がみられた問題＞

- ◆目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題
- ・【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く。〔2二〕(正答率：約5割)

大問2二

「たてわり遊び」に関する高山さんの文章の空欄に、次の条件に合わせた内容を書く。

条件①「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと

条件②下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと

【書くこと】

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に伝えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アきょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに伝えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをイなげるようにしています。

正答率：46.2%

【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。



高山さん

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする

ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる

下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうでうれしかった

解答の分析

無解答率 13.5%

正答例 〈正答率 46.2%〉	「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「みんなが楽しそうでうれしかった」という4年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流ができるところだと思います。
誤答例 〈正答率 34.6%〉	たてわり班遊びをしている下級生の1年生は、「お兄さんやお姉さんと遊べてたのしかった」や、3年生は「好きな遊びや新しい友だちが増えた」と答えてくれました。このように、みんなでたてわり遊びをしました。
○誤答例の解説 このように解答した児童の中には、「たてわり遊び」のよさを認識しているものの、そこから自分の考えをもつことができず、事実と感想、意見とを明確に区別せずに、事実を自分の考えのように書いてしまった児童がいたと考えられる。	

＜今後の学習の手立て＞

「事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する学習の機会を大切に」

事実と感想、意見とを区別して書くためには、事実を客観的に書くこととともに、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことが重要です。その際、文章全体に一貫性があるか、文末表現に注目して事実と考えを適切に区別しているか、事実と考えを混同して書いていないかなど友だち同士で交流しながら確かめ合う学習活動を充実させていきます。

「R6年度【小学校国語】調査問題」



【小学校 算数】

＜おおむね理解している問題＞

- ◇除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる問題
・ $540 \div 0.6$ を計算する [4 (1)] (正答率：約8割)

＜課題がみられた問題＞

- ◆球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題
・直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く [3 (3)] (正答率：約3割)

大問3 (3)

直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。【図形】

課題がみられた問題

解答の分析

無解答率 19.2%

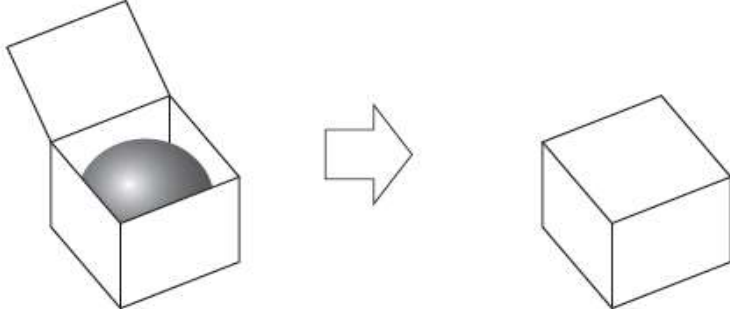
正答 〈正答率 32.7%〉	$22 \times 22 \times 22$
誤答例	① 22×22 ② 22×3 ③ 3.14 を用いた式
○誤答例の解説 ① 22×22 と解答している児童は、球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉えることはできているが、立方体の1つの面の面積の求め方を式にしていると考えられる。(9.6%) ② 22×3 と解答した児童は、円の直径と3つの辺の3から体積を求めることができると誤って捉えていると考えられる。(7.7%) ③ 22×3.14 と解答している児童は、円の直径と円周率から体積を求めることができると誤って捉えていると考えられる。(9.6%)	

直径22cmの球の形をしたボールがあります。



正答率：32.7%

このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何cm³かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

「R6全国学力学習状況調査 小学校算数」より

<今後の学習の手立て>

「図形を構成する要素を見出し、活用する学習機会を大切に」

図形の体積や面積を求める際、情報を自ら選びだすためには、図形の意味や性質の理解を深め、図形を構成する要素を見だし活用することができるようにすることが大切です。身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積や面積を求めるために必要な情報を判断する学習の機会を大切にしていきます。

👉「R6年度【小学校算数】調査問題



児童質問紙調査からみられた子どもの姿より

大台町の子どもたち

普段の生活の中で、
幸せな気持ちになることは
どれくらいありますか

92.6%

(全国91.7%)

人が困っている時
進んで助けている

90.7%

(全国92.7%)

地域や社会をよくするために何
かしてみたいと思いますか

83.3%

(全国85.5%)

いじめはどんな理由があっても
いけないことだと思う

98.2%

(全国96.7%)

人の役に立つ
人間になりたい

94.5%

(全国95.9%)

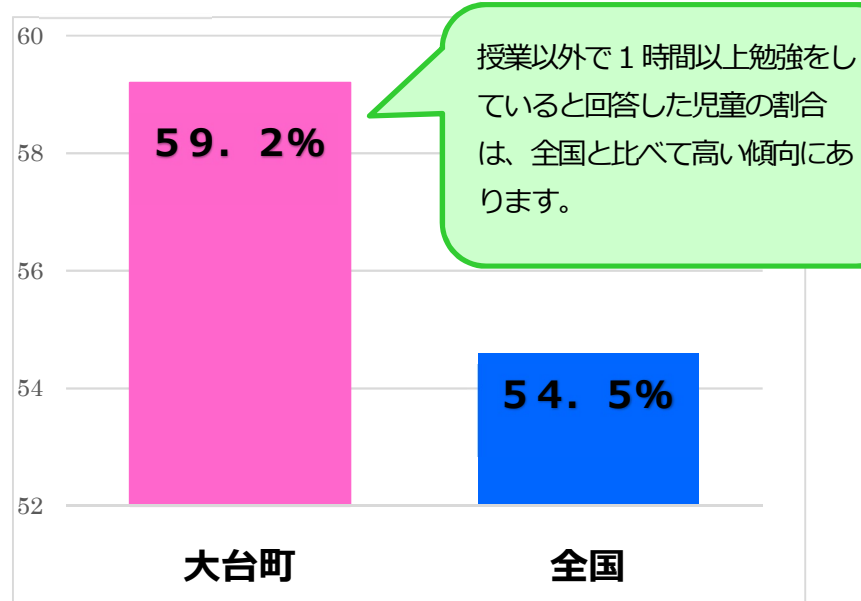
*子どもたちが児童質問紙で肯定的に
回答した割合が高かった主な設問より

児童質問紙調査からは、多くの子どもたちが幸福感を味わいながら日々の生活を送っていることがうかがえます。これまで道徳教育や特別活動の充実、9年間を見通した人権学習、豊かな自然環境を生かした体験活動をはじめ、学校教育活動全体を通じて子どもたちの豊かな心をはぐくむ取組を進めてきた成果であるといえます。今後もさらに、子どもたち一人ひとりのよさを認めたり、達成感を味わわせたりする教育活動を進め、子どもたちが将来に、夢や希望を持ち、その実現に向かって自信を高めていけるよう努めていきます。大台町の子どもたちは、保護者や地域の皆様に支えられ成長しています。今後も、保護者や地域と連携しながら、大台町ならではの特色ある学校づくりを進めていきます。

ご家庭でお願いしたいこと

Q 学校の授業時間以外に、普段 1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか

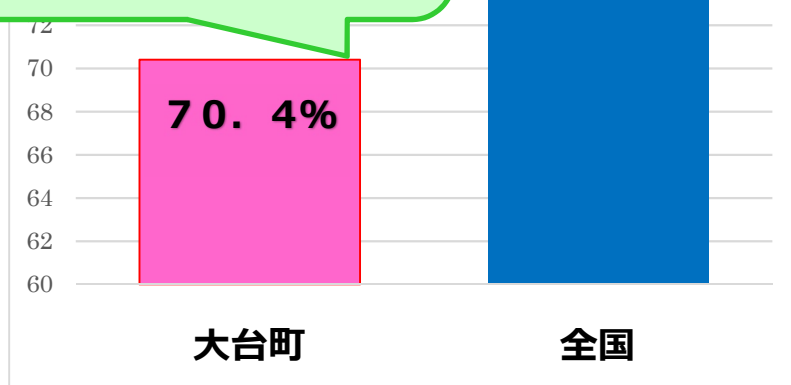
【表 1】



Q わからないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

【表 2】

わからないことやくわしく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え工夫することができていると回答した児童は、全国と比べて低い傾向にあります。



家庭で自主的に学習する習慣を身につけましょう



【表 1】からわかる通り、「授業以外で 1 時間以上勉強をしている」と回答した児童の割合は、59.2%と全国と比べて高い傾向にあり、学習する習慣が定着しつつあるといえます。毎日、繰り返しの練習や復習、予習に取り組むことが、基礎・基本の確実な定着につながります。一方で、【表 2】からわかる通り、「わからないことやくわしく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え工夫することができている」と回答した児童の割合は、70.4%で全国平均と比べて低い傾向にありました。肯定的に回答した児童ほど、国語・算数の正答率が高い傾向にありました。学校では、子どもたちに家庭での学習方法等を丁寧に指導していきます。授業の中でも自ら考え、仲間と対話しながら課題解決を図る授業づくりを進めています。時間がかかっても自ら試行錯誤しながら解決したことは、子どもたちの力となっていきます。家庭においても引き続き、子どもたちが自ら学習を進められるよう励ましの声かけや集中して取り組める環境づくりにご協力をお願いします。

大台町では、自立的な学習者を育てるために小中 9 年間を見通した「大台町家庭学習系統表」を作成し、それをもとに各校が作った「家庭学習の手引き」を子どもたちと保護者に配付しています。また、自主学習の取組も進めています。「家庭学習の手引き」をご活用いただき、お子さんと一緒に家庭学習の取組についてふりかえっていただきますようお願いいたします。

地域、保護者のみなさまへ

大台町では、学校と教育委員会が一体となって、子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」の育成を目指して取り組んでいます。学力向上の中心となるのは、「授業づくり」です。本調査の結果を学校と共有し、子どもたちが「学ぶ喜び」「わかる楽しさ」を実感できるよう授業改善を進めていきます。今後も、家庭、地域のご理解、ご協力をいただき、子どもたちの成長を支えていきたいと思ひます。どうぞよろしくをお願いします。